

エコアクション21

環境活動レポート

(第 10 版)

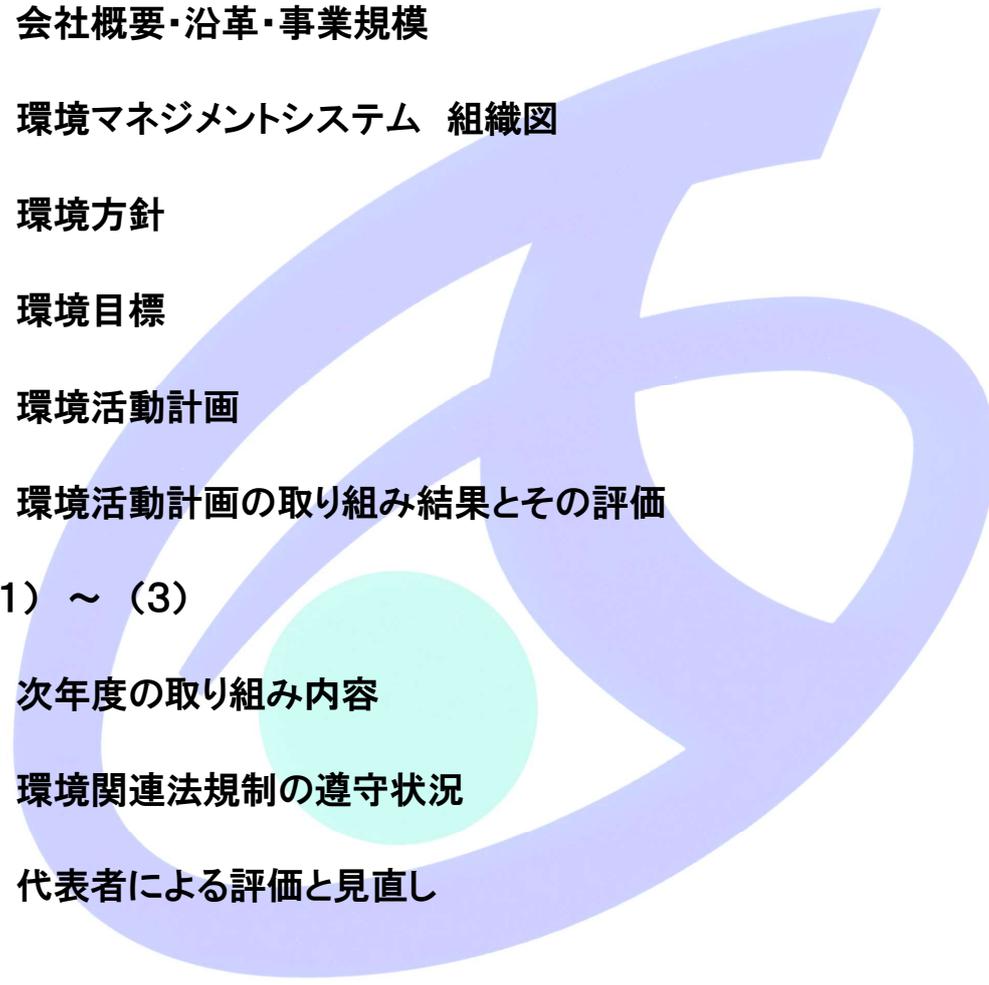
(対象期間) 2018年1月～2018年12月

第10版発行 2019年 9月 1日



 西城建設株式会社

目 次

1. 会社概要・沿革・事業規模
 2. 環境マネジメントシステム 組織図
 3. 環境方針
 4. 環境目標
 5. 環境活動計画
 6. 環境活動計画の取り組み結果とその評価
(1) ~ (3)
 7. 次年度の取り組み内容
 8. 環境関連法規制の遵守状況
 9. 代表者による評価と見直し
- 

1. 会社概要・沿革・事業規模

会社概要

事業所名	西城建設株式会社
創立	昭和 27 年 12 月 6 日
代表者	石川 秀基
資本金	2000 万円
所在地	広島県庄原市西城町大佐 7 4 1 番地 2
TEL	0824-82-2838
FAX	0824-82-2692
E-mail	saiken@seagreen.ocn.ne.jp
事業内容	(エコアクション21認証・登録範囲) 土木工事・建築工事における設計・施工
許可登録	広島県知事(特29)2880号

沿革

昭和 27 年 12 月	西城建設株式会社として資本金 1,500,000 円で創業
昭和 43 年 12 月	広島県知事登録(ね)第 1344 号
昭和 47 年 11 月	資本金 5,000,000 円に増資
昭和 48 年 8 月	広島県知事(般 48)第 2880 号
昭和 56 年 11 月	資本金 10,000,000 円に増資
昭和 57 年 8 月	広島県知事(特 57)第 2880 号 特定建設業者となる
平成 2 年 3 月	資本金 15,000,000 円に増資
平成 7 年 1 月	西城町大佐 741 番地 2 に本社屋移転、新社屋完成
平成 9 年 6 月	資本金 20,000,000 円に増資
平成 24 年 7 月	広島県知事(特 24)第 2880 号
平成 29 年 7 月	広島県知事(特 29)第 2880 号

事業規模

2016年度 : 2016年1月1日～2016年12月31日

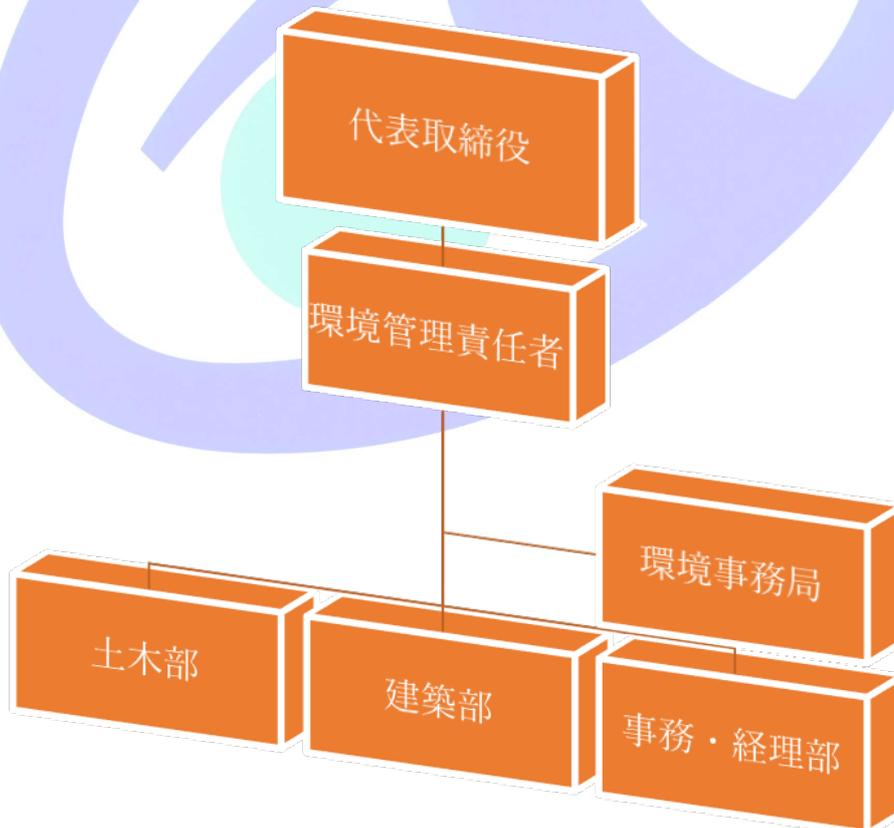
2017年度 : 2017年1月1日～2017年12月31日

2018年度 : 2018年1月1日～2018年12月31日

活動規模	単位	2016年度	2017年度	2018年度
年間工事高	百万円	224	294	366
工事件数	件	62	58	54
従業員数	人	16	16	16
床面積	m ²	486	486	486
敷地面積	m ²	454	454	454

2. 環境マネジメントシステム 組織図

実施体制組織図



役割と責任・権限

代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する全ての責任と運用についての権限を持つ ・環境経営システムの実施及び管理に必要な資源等の用意 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知・伝達 ・環境管理責任者の報告による全体の評価と見直しの実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムを構築し、実施・管理を行う ・環境事務局作成の活動計画書及び原案書類等を確認し、承認する ・環境活動の取組状況を確認し、環境目標の達成状況を評価する ・問題集の是正・予防処置に対する指示や見直しに必要な処置を行う ・環境活動の取組み結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・エコアクション2.1推進の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組みの自己チェックを実施 ・環境関連法規制等のチェックリストの作成 ・環境目標及び環境活動計画書の原案作成 ・環境活動の実績集計、取組状況の確認 ・環境関連の外部コミュニケーションの受付窓口 ・各項目のデータの収集と数値を記録 ・環境活動レポートの作成及び公開
土木・建築部	<ul style="list-style-type: none"> ・エコアクション2.1環境目標の達成に向けた具体的取組みを推進 ・環境方針及び取組み内容を把握し、従業員への周知、教育訓練の実施 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の問題点の発見・是正・予防処置 ・環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告
事務・経理部	<ul style="list-style-type: none"> ・エコアクション2.1環境目標の達成に向けた具体的取組みを推進 ・エコアクション2.1に関する取組み内容を把握し、従業員への周知、教育訓練の実施 ・特定された項目及び緊急事態への対応の為の手順書作成、テスト、訓練、記録 ・環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の問題点の発見・是正・予防処置

3. 環境方針

環境理念

私達は、緑豊かな中国中央山地に囲まれた里山の大自然の恵みを大切にしながら、安全安心で住みやすい社会資本整備の建設事業活動に貢献し、ふるさと庄原の環境を守る事が最重要課題であると考えます。よって子や孫たちが永遠に安心して健やかに、かつ快適な暮らしが出来る様、環境保全に努めます。

行動指針

社員一人ひとりが身近な事から取り組みます。
全従業員は取組み内容を熟知し積極的に環境活動へ参加します。

具体的に次の事項について取り組む事とし継続的な改善を行います。

(事業所指針)

- 1.節電による二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 2.日常生活による一般廃棄物排出量の削減に努めます。
- 3.節水活動による水使用量の削減に努めます。
- 4.環境活動レポートを全従業員に周知し、一般に公開します。

(建設現場指針)

- 1.車両・重機械の効率的な稼働による二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 2.再利用精神を養い産業廃棄物のリサイクルを推進します。
- 3.建設資材等のグリーン購入を推進します。
- 4.環境に配慮した設計・施工を提案し顧客及び地域住民への安心を図ります。
- 5.建設現場における騒音・振動・粉塵等の低減に取り組みます。
- 6.環境関連法令・条例や社内規定を遵守します。
- 7.環境保全の為のボランティア事業や地域での社会貢献活動に積極的に参加します。

2010年6月1日 制定

2019年7月5日 改定

西城建設株式会社
代表取締役 石川 秀基

4. 環境目標

項目	実施場所	基準年度(2016年) (1月～12月)		単位	環境目標値				備考
		実績 (百万円：192)			2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	
CO2 排出 量の削減	事業所	電気	14,740	kg-CO2	-8%	-9%	-10%	-11%	P：排出量/年 完工高（千円）
	建設現場	化石燃料	152,162						
	合計	166,902		kg-CO2 (p)					
廃棄物の 削減	事業所	0.43		t	-8%	-9%	-10%	-11%	一般廃棄物の 嵩比重：0.03 (リサイクル 率)
	建設現場	250.7		t					
	合計	251.13		t					
水使用量 の削減	事業所	305		m3	-8%	-9%	-10%	-11%	
	建設現場	140							
	合計	445							
環境に配 慮した設 計・施工	事業所	1		件	9件	10件	11件	10 以上	各現場で対応
グリーン 購入	事業所	8		件	16件	17件	18件	10 以上	各現場で対応
環境保全 ボラン ティア	事業所	2		件	10件	11件	12件	10 以上	各現場で対応

*** 購入電力の CO₂排出係数=0.677**

(排出係=中国電力:29年度実績)

5. 環境活動計画

1. CO2 の削減

実施場所	環境活動計画（取り組み内容）
事業所	エアコンの温度管理を徹底(エアコンスイッチ近くに推進書を提示) 昼休憩時は事務所内消灯
建設現場	重機のエアークリーナーの交換時期を厳守する アイドリングストップの徹底 エンジンの空ふかしをしない

2. 廃棄物の削減

実施場所	環境活動計画（取り組み内容）
事業所	コピー用紙の削減 新聞紙は必ず再利用する 裏紙リサイクル箱を設置し、社内で使用する資料は裏紙を使用する 重要書類以外はシュレッダーを使わない
建設現場	廃棄物資材の分別を確実にする 現場内リサイクル 100%を目指す作業員の意識改革 建設工事における広島県リサイクル製品の購入・使用

3. 水使用の削減

実施場所	環境活動計画（取り組み内容）
事業所	水廻りの洗い物はまとめてする お茶をわかした後の冷却水は使用しない
建設現場	雨水・河川水の利用

4. 環境に配慮した設計・施工の提案

実施場所	環境活動計画（取り組み内容）
事業所	環境配慮型（工作物）の設計
建設現場	環境配慮型（工作物）の施工 一現場一つは創意工夫で環境保全の項目を実施する 化学物質を利用しない設計・施工を行う

5. 建設資材のグリーン購入の推進

実施場所	環境活動計画（取り組み内容）
事業所	事務用品等はできる限り eco 製品を使用する
建設現場	定期的に eco 製品の情報収集を行う 現場で現在使用している資材を1つでも eco 製品に変える

6. 騒音・振動・粉塵対策の提案

実施場所	環境活動計画（取り組み内容）
事業所	低騒音・低振動・発塵抑制型の設計
建設現場	集塵機付きの電動工具を使用する 工事用道路にはこまめに散水を行う 重機作業時のスロットルは最大にしない

7. 環境保全の為にボランティアの実施

実施場所	環境活動計画（取り組み内容）
事業所 建設現場	事業所前のバス停の定期清掃 一現場で一回は地域のためとなる道路清掃や側溝清掃を行う

8. 化学物質の使用量削減

実施場所	環境活動計画（取り組み内容）
建設現場	化学物質の適正管理を行う 化学物質の使用記録を作成し管理する

6. 環境活動計画の取り組み結果とその評価(1)

I. 環境活動計画の取り組み結果とその評価(2018年1月～2018年12月)

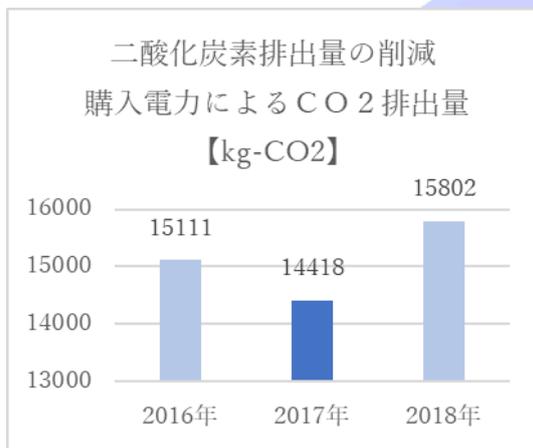
*1＝単位売上による計算(百万円あたりの達成率)

2018年度におきましても、工事高が前年度より増加しました。

今年度における目標値を100%とし、実績値の目標達成率は100%を超えれば達成したことを示します。

① 二酸化炭素排出量の削減

1) 購入電力によるCO2排出量[kg-CO2]

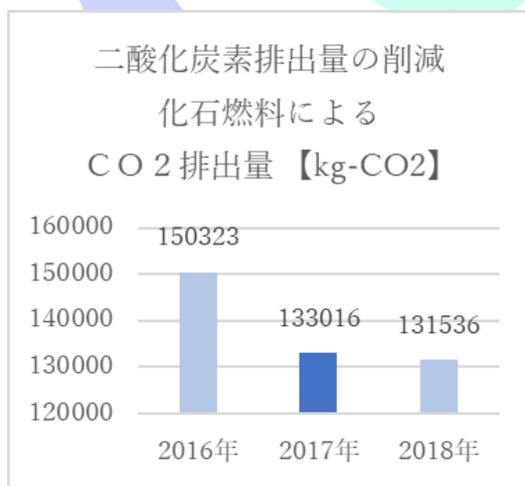


項目	CO2排出量	達成率 *1
目標値	13,413 (70)	85%
実績	15,802 (82)	

()内は、売上高百万円当たりの取組結果の数値

評価: 購入電力による排出量は、前年度より増加している。しかしグラフで比較すると、変化は少ない。増加した原因は、工事内容と異常気象が関わっているのではないかと考えられる。社員一丸となって電力量の削減は持続している。今後も引き続き取り組む。

2) 化石燃料によるCO2排出量[kg-CO2]

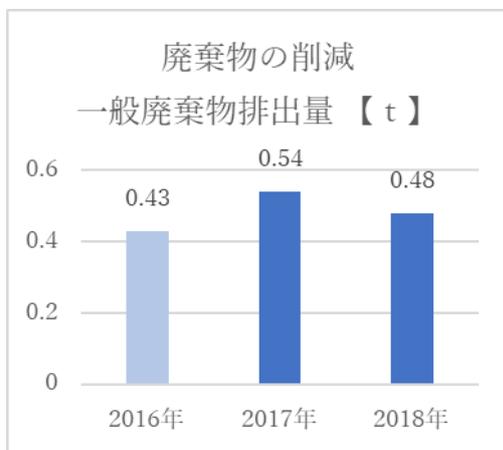


項目	CO2排出量	達成率 *1
目標値	147,597 (769)	112%
(実績)	131,536 (685)	

()内は、売上高百万円当たりの取組結果の数値

評価: 化石燃料による排出量は、去年より減少している。目標を達成した。グラフで比較すると、去年からの削減量は僅かであり、前々年度よりも排出量は大きく削減出来ている。引き続き削減に取り組む。

② 廃棄物の削減（一般廃棄物・産業廃棄物）



項目	廃棄物排出量(t)	達成率 *1
目標値	0.40 (0.21)	84%
実績	0.48 (0.25)	

()内は、売上高百万円当たりの取組結果の数値

評価: 前年度より排出量は減少している。しかしグラフで比較すると、変化は少ない。今後も引き続き削減に取り組む。



項目	廃棄物排出量(t)	達成率 *1
目標値	233.1 (1)	33%
実績	605.0 (3)	

評価: 前年度より排出量は大きく増加している。これは、工事による廃棄物の増加が原因である。特に今年度は、災害関連の工事が増加したのも一因といえる。

産業廃棄物を削減出来るように今後も引き続き削減に取り組む。

廃棄物の再資源化率

一般廃棄物 92.19 %

産業廃棄物 100.00 %

③ コピー用紙使用量の削減



項目	コピー用紙使用量(枚)	達成率 *1
目標値	40,502 (211)	59%
実績	69,175 (360)	

()内は、売上高百万円当たりの取組結果の数値

評価: 前年度よりコピー使用量が増加した。これは工事件数が増えた為、それに伴い、書類の提出物が増えた為である。引き続き削減に取り組み、削減対策を検討する。

④ 水使用量の削減

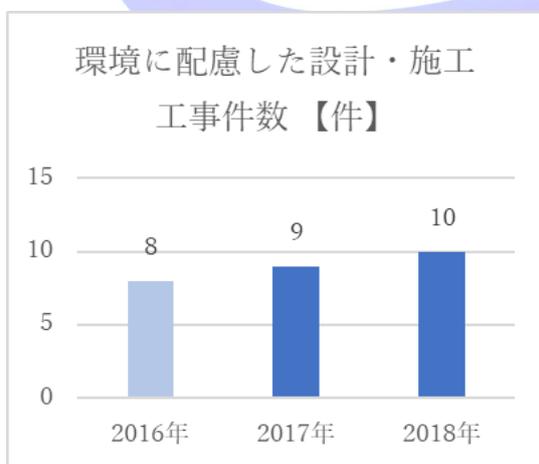


項目	総排水量 (m3)	達成率 *1
目標値	445 (2.3)	105%
実績	422 (2.2)	

()内は、売上高百万円当たりの取組結果の数値

評価: 目標を達成出来た。しかし、前年度より使用量は増加している。これは、工事内容及び天候が影響したと考えられる。社員の節水対策に対する意識は高まっている。今後も節水に取り組み、削減対策を検討する。

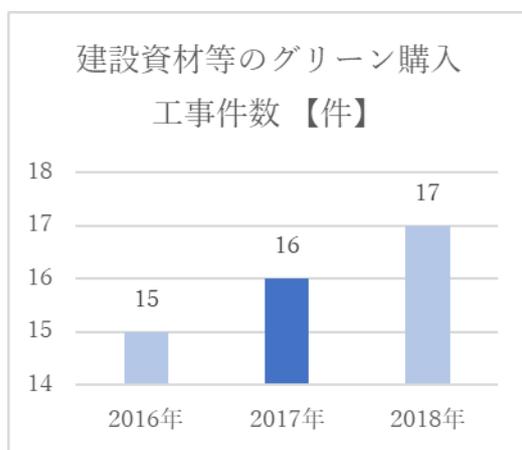
⑤ 環境に配慮した設計・施工



項目	件数	達成率
目標値	10	100 %
実績	10	

評価: 目標を達成出来た。樹木の伐採・緑化等環境に配慮し施工を行った。今後も引き続き取り組む。

⑥ 建設資材等のグリーン購入



項 目	件数	達成率
目 標 値	17	
実 績	17	100 %

評価: 目標を達成出来た。

グリーン・エコ製品の利用を考慮し取り入れた。建設資材だけでなく事務用品等のグリーン購入を行う。

今後も引き続き取り組む。

⑦ 環境保全のためのボランティア活動



項 目	件数	達成率
目 標 値	11	
実 績	11	100%

評価: 目標を達成出来た。

各工事現場において、地域に対するボランティア活動を推進した。また、事業所周辺のボランティア活動を行なった。

今後も引き続き取り組む。

6. 環境活動計画の取り組み結果とその評価(2)

ボランティア事業、社会貢献活動

2018年もわたしたちは広島県のアダプト活動認定団体として地元庄原市西城町の(国)183号線の一部区間、さらに川沿いにも範囲を広げて清掃活動を行っている。今後も定期的に清掃活動の地域を広げ積極的に地域の美化活動に参加していこうと考える。



また、当社に近いウィル西城前バス停及び西城市民病院前バス停においては地域の人に気持ち良く使っ頂く為に定期的にバス停待合室を清掃している。



リサイクル活動(産業廃棄物の細分化と再利用)

当社の作業所内に各現場で使用した資材等を持ち込み、細分化を行うことによって出来る限り木材等の資材は再利用出来るように分別ストックしている。

最終的に利用出来ない物は、産業廃棄物として作業所内の分別パレットに入れて処分する。これは廃棄物を細分化する向上を図っている。また、建設現場(西城保育所敷地造成工事)で分別ごみ集積場を設置し廃棄物等の分別化を図り、リサイクル向上を行っている。



事務所内の取り組みとしては、裏紙リサイクル箱をコピー機近くに設置し、社内で使用する。社内資料は極力、裏紙を使用するように心がけている。

排ガス基準適合重機の配置(CO2の削減)

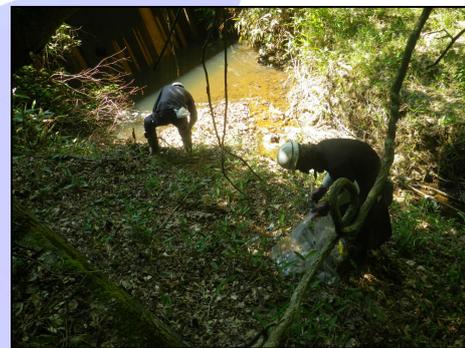
平成30年度に新型バックホウ（環境適応型新機種・低騒音型）2台を建設現場に配置し、CO2の削減はもとより周りの環境に配慮した活動を行っている。



建設現場での環境保全ボランティア

西城建設が施工している工事現場の近くで清掃活動を行った。

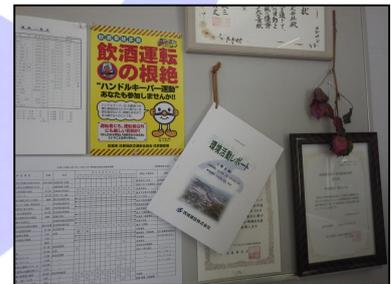
今後も地域のためとなるような、清掃等のボランティア活動を積極的に実施していこうと考える。このようなボランティア活動は、一つの現場にとどまらず全ての現場で対応していく。



エコアクション21の掲示(事業所内)

事業所内の休憩室の掲示板にエコアクション21の環境方針を掲示するとともに、環境活動レポートの最新版を掲示して全従業員がいつでも閲覧が可能にすることによって環境負荷の低減意識を啓発することになっている。

エアコン等のスイッチ周辺に節電等の指標を掲示し環境活動の意識を高めている。



会社入口にも掲示している。



6. 環境活動計画の取り組み結果とその評価(3)

取り組み結果についての評価及び見直し(対象期間:2018年1月~2018年12月)

1) CO2 (二酸化炭素) 排出量の削減

実施場所	評価	見直し
事業所	<p>電力量の削減については、事務室の昼休み消灯は定着し、使用していない部屋の消灯も続けている。パソコン等機器類の対応も退社時には必ず電源を切る等の節電意識が出来ている為、個別の目標としては結果が出ている。</p> <p>全社員に削減意識が定着しつつあり、結果に反映している。</p>	<p>事業所内の節電意識が年々向上しており、休憩時間や退社時の節電対策が行えるようになり、かなり節電効果が出ている。今後も更に向上心をもってCO2の削減に取り組む。</p>
建設現場	<p>CO2の削減量については、前年度より大きくなっている。</p> <p>そして目標を達成しており、取り組みは、実施出来ていると思われる。</p> <p>また、工事量や施工場所によっては、使用量が増減するため使用量の削減では評価が難しいと考える。</p>	<p>建設現場に於けるCO2排出量の削減が最重要であり、使用する車両・重機の点検または各車両の燃費を考慮し排出量の削減活動を実施する。</p> <p>更なる削減対策について、各現場で考え実施する。</p> <p>今後については、再度全従業員がCO2削減の取り組みを意識し環境活動に取り組む。</p>

2) 廃棄物排出量の削減

実施場所	評価	見直し
事業所	コピー使用量は、前年度に比べ増加している。これは工事件数の増加と工事内容が大きく関わっていると考えられる。しかし、コピー機の近くに張り紙をするなど、個々での裏紙再利用や使用量も少なくする意識が高まり、全員で削減に取り組んでいる。 また、全社員が率先してゴミの分別化に取り組んでいる。	目標は達成されたとは言えないが、取り組み結果は出ていると考えられる。仕事量に左右される部分が多いが、今後も削減意識を持って活動に取り組む。
建設現場	建設副産物については、全てマニフェストにより徹底管理し、再資源化については100%である。 再利用についても、ゴミ・資材等を細分化しリサイクル率の向上を図ることで効果が出ていると思われる。	今後更に、チェック体制を強化し維持管理を徹底する。

3) 排水量の削減（水使用量の削減）

実施場所	評価	見直し
事業所	日常における節水活動ができ、節水意識が高まっており削減効果がでてい	水の利用については、更に節水に取り組み蛇口を頻繁に閉める等の細やかな配慮を行い節水に取り組むものとする。
建設現場	前年度の水使用量に大きな変化はないが、確実に減少している。建設現場や作業所内で節水対策が行われ、削減への意識が高まり効果が出ている。	水の有効利用を全従業員及び下請等で徹底し、今後更に削減意識を持って活動に取り組む。

今年度の実績数値目標に対しては、廃棄物・コピー用紙使用量等が目標値を達成出来ておりません。しかし、二酸化炭素排出量(化石燃料)・水使用量の削減については、100%を超えており、達成出来ております。
達成出来なかった原因には主に、工事内容等による変化によるものと考えられ消費・排出量の削減効果は向上していると考えられます。

7. 次年度の取組み内容

エコアクション9年目となりました。事業活動の中に環境活動の内容を定着させるためにPDCAの基とし、今後も削減に取り組んでいきたいと思ひます。

項 目	活 動	実施場所	取 組 み 内 容
CO2 排出量の削減	継続	事業所	空調温度の厳守 使用していない部屋の電気は必ず消す パソコンの電源は帰る時に必ず消す 昼休憩時は事務所内消灯（継続）
		建設現場	現場移動は相乗り及び走行コースの見直し エアクリーナーの交換時期を厳守すること アイドリングストップの徹底 空ふかしをしない ウォームビズ・クールビズの徹底
廃棄物の削減	継続	事業所	コピー用紙の削減 新聞紙は必ず再利用する コピー用紙はできる限り再利用する 重要書類以外はシュレッダーを使わない
		建設現場	廃棄物資材の分別を確実にする 現場内リサイクル100%を目指す作業員の意識改革
水使用量の削減	継続	事業所	水廻りの洗い物はまとめてする お茶を沸かした後の冷却水は使用しない
		建設現場	雨水・河川水の利用
環境に配慮した設計・施工	継続	事業所	環境配慮型（工作物）の設計
		建設現場	環境配慮型（工作物）の施工 一現場一つは創意工夫で環境保全の項目を実施する 化学物質を利用しない設計・施工を行う
建設資材等のグリーン購入	継続	事業所	事務用品等はできる限り eco 製品を使用する。
		建設現場	定期的に eco 製品の情報収集を行う。 現場で現在使用している資材を1つでも eco 製品に変える。
騒音・振動・粉塵 対策	継続	事業所	低騒音・低振動・発塵抑制型の設計。
		建設現場	集塵機付きの電動工具を使用する。 工事用道路にはこまめに散水を行う。 重機作業時のスロットルは最大にしない。 高基準値の低騒音排ガス機械の導入。
環境保全の為のボランティア	継続	建設現場	一現場で一回は地域の為となる道路清掃や側溝清掃を行う

8. 環境関連法規制の遵守状況

	法規制対象	能力・ 取扱量	関連法規	届出基準	届出要否
1) 設備系列	バックホウ・ ブルドーザ・ コンプレッサー	各種	・騒音規制法 ・振動規制法 ・排ガス対策型建設 ・機械普及促進規定	特定建設作業・ 適用指定地域 公共工事	要 要
2) 取扱物質	廃棄物		廃棄物処理法 建設リサイクル法		
	委託契約書	コンクリート塊			要(届出なし)
		コンクリート・アスファルト			要(届出なし)
		木材			要(届出なし)
		建築資材			要(届出なし)
	マニフェスト		廃棄物処理法 建設リサイクル法	全て	対応済
石綿等		建築基準法	石綿含有建材 の使用禁止	対応済	
フロン排出	業務用 空調機器		フロン排出抑制法	届出なし	対応済 簡易点検

*2009年から10年間、関係機関からの指導、指摘もありませんでした。

*環境関連法規等の違反、訴訟はありませんでした。

9. 代表者による評価と見直し

この度、石川芳秀が代表取締役会長に、石川秀基が代表取締役社長に就任いたしました。

引き続き社業並びに環境活動の継続に精励いたす所存です。

また、エコアクション21の環境活動も10年目となりますので、環境方針及び取り組み内容を全従業員及び協力会社で再度確認し環境活動の継続と前進をして参ります。

	環境管理事務局からの報告	代表者の評価と指示事項
環境方針について	このたび、環境方針に新たな項目を追加しました。また、環境方針について問題があれば改善・変更をします。	環境方針に基づいて9年目の取り組みであった。追加した、環境方針については適正と判断している。
環境目標について	環境目標について、全てが達成されたとは言えません。これは工事件数が増えたのが原因の一つと考えています。引き続き削減を続けます。	目標値の設定時に従前より良い方向で取り組む設定とするが、可能性のない設定は好ましくない。実現可能な目標設定とする。また環境目標の基準年度を見直すこと。
環境活動計画について	9年間を通じて環境活動を行ってきましたが、今後も活動を継続し矛盾があれば改善します。	異常気象により目標達成率の悪いものがある。今後は、事故防止対策にも注視し計画改善に取り組みたい。
環境経営システムについて	環境経営システムは、現組織の中で有効に機能しています。今後も活動を継続します。	本社内と各工事現場とで管理を徹底するが、下請協力業者への指導も当社社員同様に指導管理する。そして2017年版ガイドラインへの移行は移行期間内に対応出来るよう改訂の準備を進めていく。